中野区立歴史民俗資料館だより

しいのき

第６号

発掘された中野城山遺跡

名誉館長　三　隅　治　雄

武士集団の戦乱興亡の激しかったわが国の中世は、時代の生活を象徴する史料の乏しさにおいてつねに研究者を嘆かせております。このほど、区内城山の田島氏邸庭園の発掘調査が行われ、これが室町時代以降この地に勢力を張った豪族の居館跡だということが実証され、武蔵野中世史の解明にひとつの貢献を果たすことが出来ました。すなわち、中世、中野地方には、鈴木氏、飯塚氏、平氏、堀江氏などの豪族が次々にすみついたといわれ、また、文明９年の江古田、沼袋合戦の折り、太田道灌が城山に據って戦ったとの伝承をも残しているのですが、今回の発掘では、この居館跡は、戦国時代、中野郷五ヶ村の開拓に力を尽した堀江氏のものであったとみられます。粘土を積み上げた高さ２ｍ内外の土塁や、車の通る道をはさんで建てられた居館と雑舎のたたずまいなど戦乱の中に生きた当時の豪族の生活がしのばれて、感慨深いものがあります。

文化財よもやま話

醤油屋のしいの木

中野区の木は「しい」の木です。その中でも歴史民俗資料館の建物とならんでそびえたつしいの木は、幹の周囲約４ｍ、高さが約15ｍもある区内最大のものです。

この木はもともと土地提供者である山﨑家のもので、代々名主をつとめてきた同家が醤油醸造を営んでいたことから、邸内の他の木とともに「しょいや（醤油屋）のしいの木」として呼び親しまれてきました。

江戸時代から明治時代にかけて、街道を行き交う多くの人々がこの木の根元で荷車をとめて休憩をしました。また、1868年の戊辰戦争の際には、官軍に追われた彰義隊が秩父・飯能方面に逃げのびる途中で山﨑家に立ち寄り、この木の下で休んでいったといわれています。さらに、太平洋戦争（1941年～1945年）で付近の多くの家が延焼しましたが、山﨑家はこれらの木々のお陰で被害を免れたとのことです。

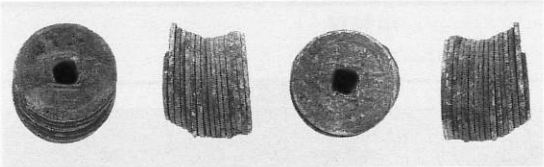
このように、歴史の風雪に耐え、夏には木陰を、冬には防風、時には防火の役割を果たし、樹齢が500 年を越えるしいの木は、平成３年４月には区の文化財として指定されました。しかし、同時に衰えも見えてきたため、樹医の山野忠彦さん（日本樹木保護協会代表）にお願いして、６月３日から二週間にわたってしいの木の治療をしていただきました。山野さんはこれまでにも、全国で1200本を越える名木・古木を生き返らせた名樹医として著名な方です。治療に当たり、しいの木の周りに足場を組み、幹の腐食部分や虫喰部分を削ったり、消毒したりするなど処置が施されました。「今は葉が小さく弱々しいが、手入れしてやると元気になる」という山野さんの言葉の通り、若がえったしいの木はこれからも街のシンボルとして、人々の生活を見守っていくことでしょう。

▲　しいの木の「声を聞く」山野忠彦さん

大地に眠る歴史

500年前の遺失物――渡来銭

発掘調査で出土した遺物は、遺失物法に基いて所轄の警察署にも届出をすることになっています。今回紹介する拾得物は、ちょっと気になる落し物、「お金」です。



巻頭でも触れた中野城山遺跡では、土塁が築かれたのとほぼ同時期の地層から、写真の古銭が発見されました。いずれも円形方孔（四角い穴）の銅銭で、16枚がサビてくっついており、表面は緑青に覆われています。ややズレて並んでいるのは紐を通していたためと思われ、緡と呼ばれる一つづりの連銭の一部分と考えられます。

16枚の古銭の内容は中国の唐、宋（北宋）、明朝時代に鋳造され、日本に持込まれて通貨として使用された「渡来銭」でした。古いものでは７世紀に作られた開元通宝（唐銭）もありましたが、枚数が多いのは11～12世紀の北宋銭で、最も新しいのは1408年から鋳造をはじめた永楽通宝（明銭）です。渡来銭は中世の貨幣経済発展に伴って輸入され、流通したものですが、この資料は、その中に明との貿易でもたらされた永楽通宝があることから、室町時代15世紀以後、戦国期も含めた頃に、この居館に住む豪族が持っていたものと考えられます〔江戸時代の代表的な国産コインである寛永通宝（時代劇で銭形平次が投げている銭）が全く含まれていないのも、判断の手がかりになります〕。室町時代以降には、まとまった銭を箱や甕に入れて地下に埋める例があります。ここから先は、あくまでも想像の話ですが、どこかに古銭が埋蔵されていて、この発掘資料はその一部を落したもの、と思うと夢は大きくなりますが……。

遺失物は半年間にわたり公告されますが、およそ500年前の所有者が申し出ることはありません。以後、古銭は歴史を語る文化財として、保管されることになるのです。

古文書つづり

発見!! 江古田の獅子舞由来書

江戸時代初め、伊勢国の世義寺の宥円という山伏が、諸国を巡回して修行中、たまたま江古田村に一夜の宿を願ったところ、大雪に見舞われ滞在を続けました。そのうちに村人から、森羅万象を熟知した修験者ということで、新田開発の指導を請われました。それを引き受けた宥円は、開発地や範囲の選定をしたり、金峰山、御嶽山ほかのお札で「真」となる宮を定めるなどの指導をして、2年がかりで立派な新田ができました。そこで、社を作ったときの切り株を彫って作った獅子頭をかたみに残して、国元へ帰りました。その後、宥円が再び江古田村を訪れたとき、村の若者に、獅子頭で舞や笛、鼓を教え、金峰山境内で舞ったのが、今も続く江古田の獅子舞の始まりで、慶安2年（1649）のことです。宥円は請われて村にとどまり、大蔵院という祈祷所を設立しました。

◀ 発見された獅子舞の由来書

江古田の獅子舞の由来については、さまざまな伝承がありますが、資料館敷地の寄贈者である山﨑家の土蔵のなかから、由来書が見つかりました。宥円の子、大太郎（二代目大蔵院）が書いて奉行所に提出した「獅子由来并大蔵院起立書」（写）がそれで、上記のような由来をつづっています。

山を降りた修験者が、里でどう根付いていったか、また、風・水・土に対する経験知識と思想をもとに新田開発を指導した点など、村のかたち作られる過程がうかがわれ興味深い資料です。

中野往来

巨樹・古木を訪ねて

▲ 禅定院の大イチョウ

区内で最大の樹木は、禅定院（沼袋2－28－2）のイチョウ。漢字で、銀杏とか公孫樹。

寺の歴史と同じなら、樹齢は600年以上で、8代将軍吉宗が来た東福寺のイチョウとは、遠く離れていても夫婦とか。禅定院境内には、なんじゃもんじゃの木や区の保護樹木の菩提樹などもあります。近くの氷川神社（沼袋1－31－4）には、太田道灌お手植えの道灌杉（根株）、明治寺（沼袋2－28－20）には、葉の形から半纏の木とか軍配の木と呼ばれるユリノキの大木、お隣りの密蔵院（2－3－4）には、木偏に秋と書く楸（キササゲ）の古木などがあります。

これらの巨樹・古木を訪ねながらの沼袋歴史探訪に出掛けてみませんか。

中野昔話

墓場でばくち

話し手：区内江古田 男 明治39年生

わたし、その時分、竹だの丸太だのって売ってた。それで、東福寺に、注文されたの。「竹を持ってこい」って、持ってった。それで、「こういうとこのお墓のとこだ」、「はい、わかりました」ってね。かついでって、ポオッとおっぽり出した。そしたらね、墓と墓の間から、パラパラ、パラパラと人が出てきた。そしてねえ、わたし見て、「この野郎、脅かすな」なんて言われて、怒られたことあるの。ばくちしてたの、野天ばくちをね。東福寺のお墓の間で。

（中略）バァーンと（竹を）おっぽり出したでしょう。それだから、その音が、驚いて、みんな逃げ出したんだよ。手入れがあると思って。

『中野の昔話・伝説・世間話』から

事業報告

各種事業経過

1991年4月～6月

事業名	内容	期間
ミニ展	新指定文化財記念展示（江古田の獅子舞） 「節句と子ども展」 「伝統工芸展」川と中野の伝統工芸 「寄贈資料展」	4／2～14 4／23～5／12 5／21～6／15 6／25～(7／14)
史跡めぐり	「南台コース」解説者：当館 角田専門研究員	4／28
埋蔵文化財調査	中野城山遺跡　発掘・資料整理 中野三丁目27番　民有地　試掘	継続中 5／11～12

寄贈資料一覧

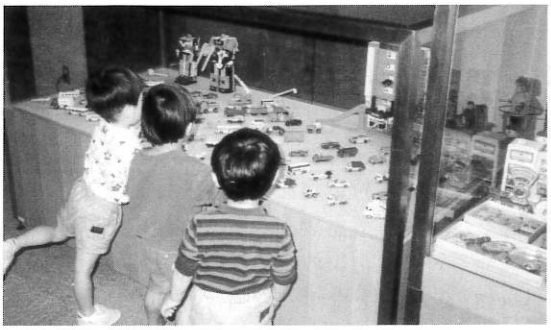
1991年1月～4月
敬称略・受入順

資料名	点数	氏名
俳句関係図書	1	大谷　若子
日本写真帖	1	水野　繁
隣組旗・衣料切符 他	20	澤田千鶴枝
あねさま人形・手まり	9	黒田　秀代
五月人形	一式	安藤　喜市
旧陸軍用袋	1	石村　与志
ひな人形	一式	神羽　和子
蚊帳	1	大橋　秀雄
ひな人形・五月人形	各一式	愛　宕　家
ひな人形	一式	鈴木　チヨ
ひな人形	一式	榎本　金明
醤油樽	1	清水　隆三
ひな人形・こいのぼり	各一式	加茂　詮
御殿びな	一式	早　水　家
大工棟梁はかま	一式	窪寺　脩吉
浮世絵	3	鈴木　新作
五月人形	一式	吉田　政春
五月人形(2種)	各一式	村上由美子
ミシン 他	120	水上　納
おりたたみ洋ダンス	1	鈴木　実
ひな人形・五月人形	各一式	山口　行男
五月人形	一式	天野　哲三
着尺掛・電子ブロック	3	渡辺　幸雄
こいのぼり	1	石井　則孝
板碑	1	田島　震

⊙貴重な資料をありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

＊＊新任職員紹介＊＊

5月1日より、当館 専門研究員として、 串田紀代美が着任しました。



▲ 「節句と子ども展」のひとコマ

NEWS

＊しいの木 治療作業(文化財よもやま話参照)は、6月13日に無事完了しました。作業期間中は足場組立のため不便をおかけしましたが、今はしいの木・屋外展示とも支障なくご覧になれます。

＊ミニ展「速報展・中野の遺跡」ご案内
7月23日より9月8日まで、2階企画展示室にて、遠藤山・中野城山などの区内遺跡出土資料を展示いたします。

NEWS

入館状況

1991年4月～6月（75日間）　（人）

一般	行政視察	学校教育	合計
9,628	190	982	10,800

発行年月日　1991年7月1日
編集・発行　山崎記念 中野区立歴史民俗資料館
〒165 東京都中野区江古田4－3－4
☎ 03(3319)9221　FAX 03(3319)9119
(印刷物登録番号　3中教社社第5号)